

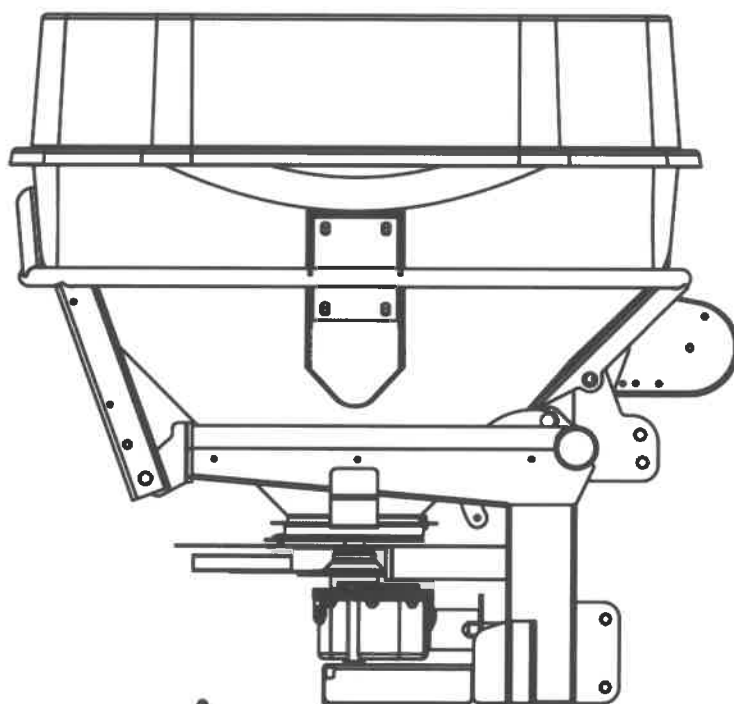
取扱説明書及び部品表

Takakita

コンポキャスト

CC6001D

CC8001D



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。

お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットから右記QRコードを読み込んで
アクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**コンボキヤスタ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いてあります。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

- | | |
|------|--|
| ⚠ 危険 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
| ⚠ 警告 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。 |
| ⚠ 注意 | その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。 |

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	17
各部の名称とはたらき	18
トラクタへの装着	20
1. 3点リンケージへの装着のしかた	20
2. ユニバーサルジョイントの取付け	20
3. コントロールボックスの装着のしかた	21
4. 残量センサーアタッチ (オプション)の装着のしかた	22
5. オートヒッチへの装着のしかた	22
運転に必要な装着の取扱い	24
1. 電動シャッターの取扱い	24
2. PTO連動の取扱い	24
3. 散布方向の調整	25
4. 残量センサ (オプション)	26
作 業 方 法	27
1. 作業手順と要点	27
2. 移動をするときは	28
3. ホッパーに肥料を投入するときは	28
4. 肥料の混合・攪拌方法について	28
5. 散布高さの調節について	29
6. 散布量の設定及び調整について	30
7. 散布作業の方法について	31
8. 散布幅について	32
9. 傾斜地での作業	32
10. PTO回転速度	32
11. 肥料混合時の注意	33
作業前の点検について	34
点検一覧表	34
簡単な手入れと処置	35
1. シェアボルトの交換	35
2. 肥料の適・不適について	35
3. 散布ミッションのオイル点検	36
4. 日常の管理について	36
5. 長期格納時の手入れ	36
6. 使用済廃棄物の処分について	36
7. コネクタの保管と清掃について	37
8. 各部への注油	37
不 調 診 断	38
付 表	39
1. 主要諸元	39
2. 主な消耗部品	40
3. 回路図	40



機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

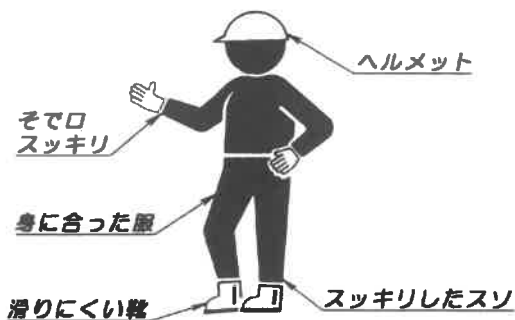
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



（３）適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

●適応トラクタ馬力

型 式	適応トラクタ kW (PS)
CC6001D	33.1～58.8 (45～80)
CC8001D	44.1～88.3 (60～120)

- 3点リンケージ規格：カテゴリ I，II
- PTO回転速度：540 min⁻¹ (rpm)

(4) 積載量の厳守

本機は、積載量を限定しています。
表示以上の積み過ぎは危険です。

積載量は平地で

6 0 0 k g (C C 6 0 0 1 D)

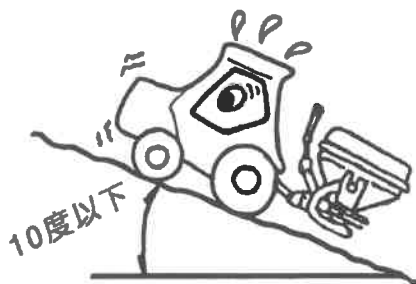
800 kg (CC8001D)

傾斜地作業は最大傾斜 10 度までとし、
そのときの積載量は

4 2 0 k g (C C 6 0 0 1 D)

5 6 0 k g (C C 8 0 0 1 D)

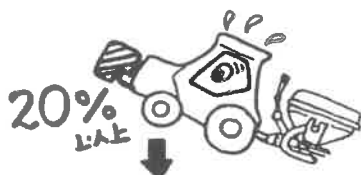
以下です



⚠ 安全に作業するために

(5) 装着時の前後バランス確認

3点リンケージに装着して持ち上げたときに、総重量の20%以上の荷重が前輪に作用していることが必要です。もし、不足するときはトラクタ指定のフロントウエイトを取付けて、20%以上を確保するか、できなければ装着しないでください。

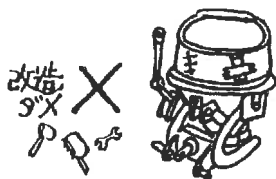


(6) バランスウエイトの取付け

トラクタのバランスウエイトは指定された部分に指定されたウエイト以外は取付けしないでください。

(7) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けしないでください。
また、改造をしないでください。



(8) 使用目的以外への使用禁止

コンポストや粒状肥料の散布を目的として作られた機械です。他の目的には使用しないでください。

(9) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。



(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

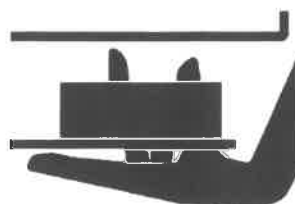
(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、PTOを切り、トラクタのエンジンを停止させ、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。



(4) 慣性回転に注意

クラッチを切ってもスピナーは慣性力でしばらく回転しています。完全に停止するまで触れないでください。

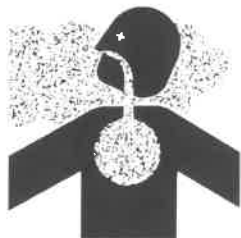


⚠ 安全に作業するために

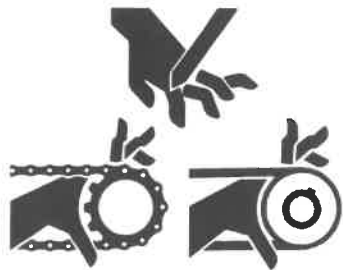
- (5) 機械を常にきれいに
火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取り除き、機械を常にきれいにしてください。



- (6) 排気ガスには十分注意
屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。
エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



- (7) カバー類を必ず取付ける
カバー類などの防護装置を取外す場合は、必ずPTOを切り、エンジンを止めてから行ってください。
また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



- (8) 注油・給油するときは
PTOを切り、エンジンを止め、回転部分が完全に停止してから行ってください。



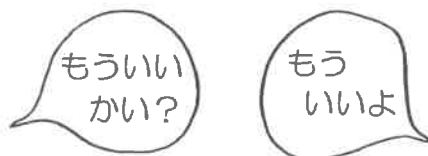
3. 作業・移動をするときは

- (1) 人や動物を近づけない
特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。



- (2) PTO回転中は危険です
回転中には近寄らない、触れないを守ってください。

- (3) 二人以上で作業するときは
二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



⚠ 安全に作業するために

(4) エンジンを始動するときは

P T Oを切り、変速レバーを中立にし、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(5) 散布するコンポストの異物は取り除く

散布するコンポストには石・木片・鉄片などの異物を混入させないようにしてください。機械の故障の原因となるばかりでなく、思わぬ方向へ飛散して危険です。



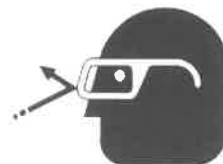
(6) 散布作業するときは

散布作業中は後方に肥料が7 m前後に飛散します。後方に人がいないことや障害物のないことを十分確認し、散布距離を考慮して作業してください。



(7) キャビンなしのトラクタに装着して作業する場合

肥料が飛散し、目や呼吸器に入る恐れがありますので、必ず保護メガネと保護マスクを着用して作業してください。



保護メガネ着用
保護マスク着用

(8) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードを出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

(9) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

①斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。

斜面の作業は、必ず等高線に直角方向に走行してください。

②傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。高速で旋回すると、転倒する危険があります。

⚠ 安全に作業するために

(10) 回転中のユニバーサルジョイントには触れない

回転しているユニバーサルジョイントに、手や足で絶対にふれないでください。巻き込まれ傷害を負うことがあります。



(11) シェアボルトの交換や巻き付き草などを取り除くときは

P T O を切り、エンジンを必ず止め、回転部が完全に停止してから行ってください。



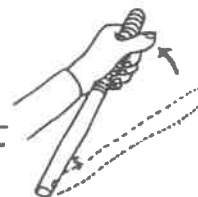
(12) 溝や畦を横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



(13) 作業途中で運転席より離れるときは平坦な場所に降ろし、P T O を切り、エンジンを止め、駐車ブレーキを掛けてください。

駐車ブレーキを
忘れずに



(14) 高温油に注意してください

- ① 高温油による傷害を防止するために作業直後の注油やミッションのオイル交換はしないでください。作業前か十分温度が冷えてから行ってください。
- ② 火傷やケガを負った場合は、速やかに医者診療を受けてください。

高温のときは
やめて!!



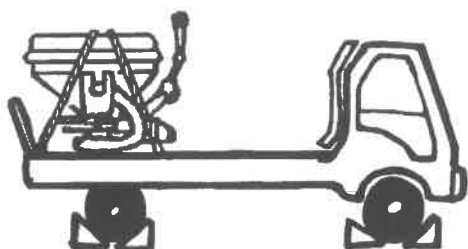
安全に作業するために

4. 輸送するときは

(1) トラックなどへ積み込み・積降ろしは

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。

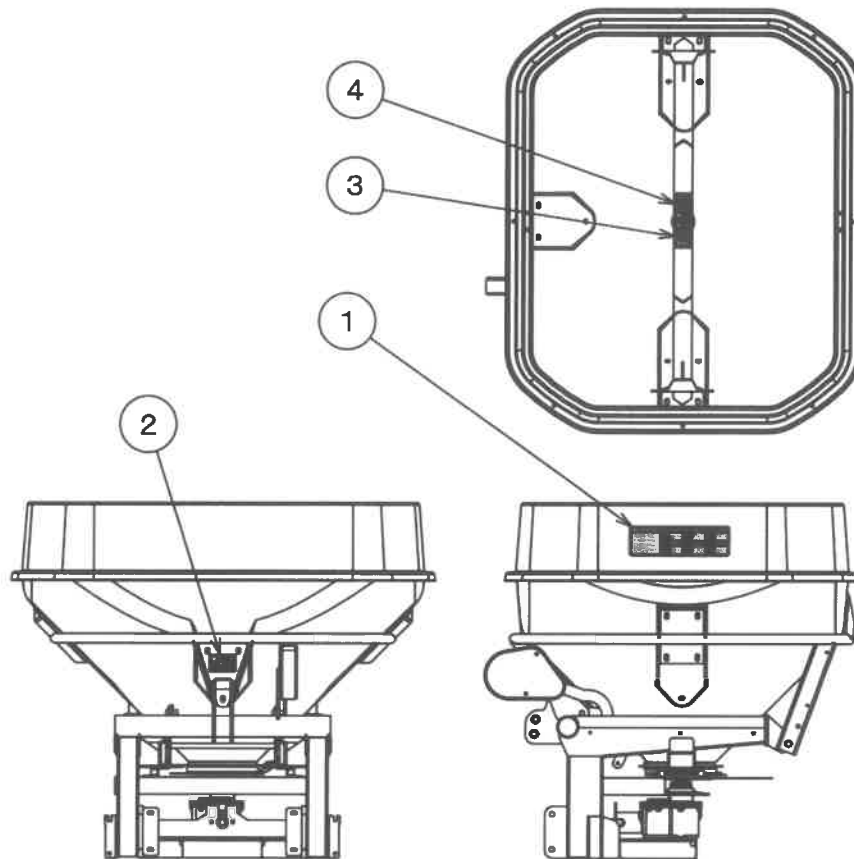
積込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で  印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

安全に作業するために

5. 警告ラベルの貼付け位置



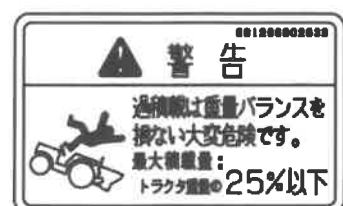
①部品コード 00120-6001-622

注意 - 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書を熟知するまでお読みください。 - ラベルが傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、新しいラベルを指定の場所に貼ってください。 - エンジン始動前に機械の周りに人がいないことを確認してください。 - 作業中は人や動物を近づけないでください。 - トラクタから離れるときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。 - 斜面での駐車時は止まりをしてください。 - 点検・調整等は必ずエンジンを止めてから実施してください。 手、足及び衣服を運動部分に近づけないようにしてください。 - 道路走行は、道路交通法規を遵守してください。	注意 作業機を上昇させる場合は十分に注意してください。作業機がトラクタと接触し、破損するばかりでなく傷害を受ける恐れがあります。	警告 回転中のアジテータに触れると傷害をうけます。エンジンを切り、アジテータが完全に停止するまで触れないでください。	警告 ジョイントに巻き込まれてケガをする恐れがあります。回転中は近づかないでください。ジョイントカバーは常に装着してください。
	危険 転落事故を防止の為、発進や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないよう充分な前輪ウェイトを装着してください。	警告 回転中のスピナーに触れると傷害をうけます。エンジンを切り、スピナーが完全に停止するまで触れないでください。	警告 運転中は散布前方には、近づかないでください。飛散物で傷害をうける恐れがあります。

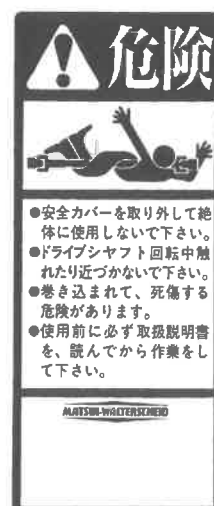
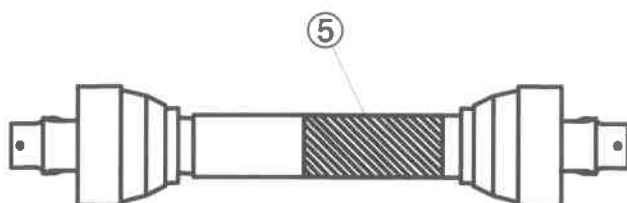
②部品コード 00120-6002-100

③部品コード 00120-6002-110

④部品コード 00120-6002-030



⚠ 安全に作業するために



警告ラベルの取扱注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

安全に作業するために

公道走行するときは

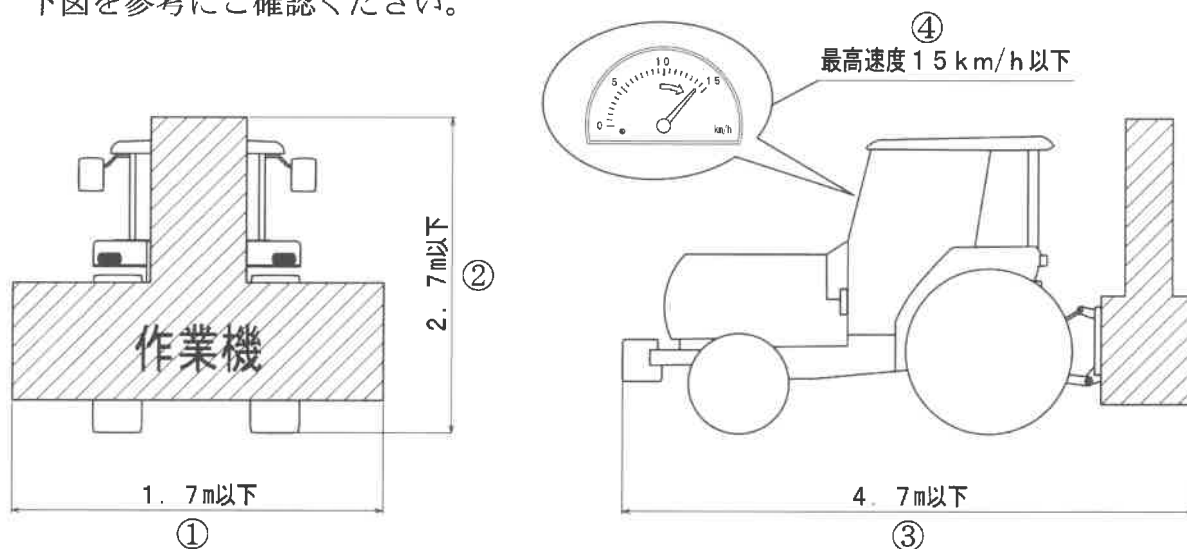
農耕用トラクタに関わる道路運送車両法の運用が見直され、保安基準に緩和措置が設けられました。必要な対応をすることで、直装タイプの作業機で公道走行を行うことができます。公道走行をする際は、下記項目を確認した上で必要な対応を行い、法令遵守して走行してください。

(1) 必要な運転免許証について

トラクタ単体の場合、道路運送車両の技術基準（保安基準）の適合性を確保できる農耕トラクタであれば小型特殊免許/普通免許及び大型特殊免許（農耕用に限るも、含む）で運行可能ですが、トラクタに作業機を装着した際に①～④の数値をひとつでも上回る場合、大型特殊免許（農耕用に限る、も含む）が必要となります。

- | | |
|------------|---------------------------------|
| ① 全幅 1.7 m | ② 全高 2.0 m（安全キャブや安全フレームは 2.8 m） |
| ③ 全長 4.7 m | ④ 最高速度 15 km/h 以下 |

下図を参考にご確認ください。



(2) 保安基準への適合性確認

自動車の種類と大きさにより、申請や検査登録が必要になります。

	農業用小型特殊自動車	農業用大型特殊自動車
トラクタに作業機を装着した時の寸法が、 全幅 2.5 m、全長 12 m、全高 3.8 m を <u>すべて超えない</u> 場合	公示一括緩和を適用した車両として申請や登録は必要ありません。	全国の運輸支局等で検査登録が必要です。
トラクタに作業機を装着した時の寸法が、 全幅 2.5 m、全長 12 m、全高 3.8 m を <u>いずれかを超える</u> 場合	- 全長 12 m、全高 3.8 m のいずれかを超える場合は、地方運輸局長に個別緩和を申請する必要があります。 - 道路管理者から特殊車両通行許可を得る必要があります。	- 検査登録が必要です。 - 全長 12 m、全高 3.8 m のいずれかを超える場合は、地方運輸局長に個別緩和を申請する必要があります。 - 道路管理者から特殊車両通行許可を得る必要があります。

安全に作業するために

(3) 灯火器類・ステッカーの取付け

下記フローチャート①～④を全てそれぞれについてご確認ください、必要に応じて公道走行を行うための追加装備を取付けてください。

①作業機最外側からトラクタの灯火器類までの距離

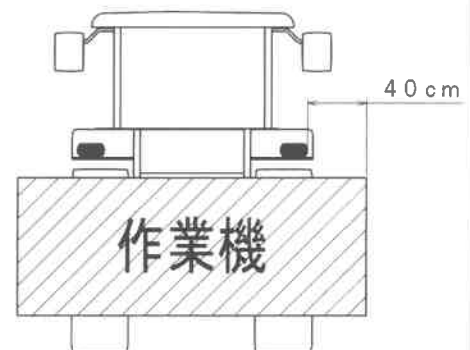
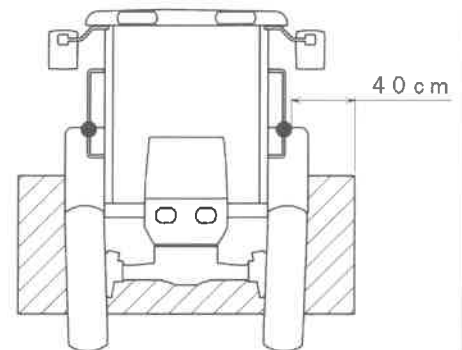
トラクタの後退灯以外の灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内にある。

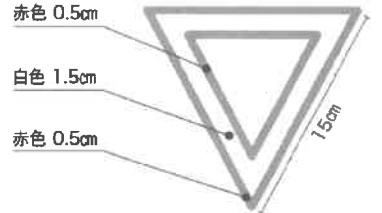
YES

NO

①での追加装備は必要ありません。

前面:A.白色反射器
後面:B.赤色反射器
C.制限標識
を取付ける必要があります。



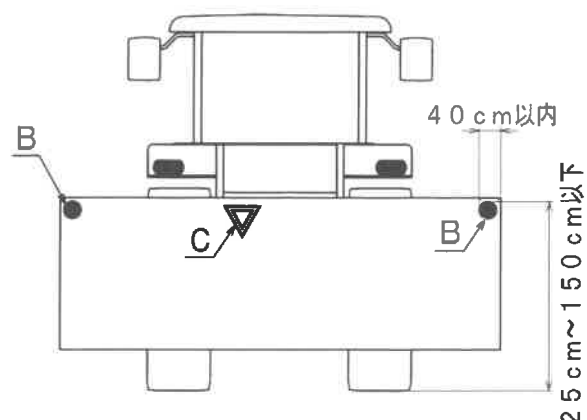
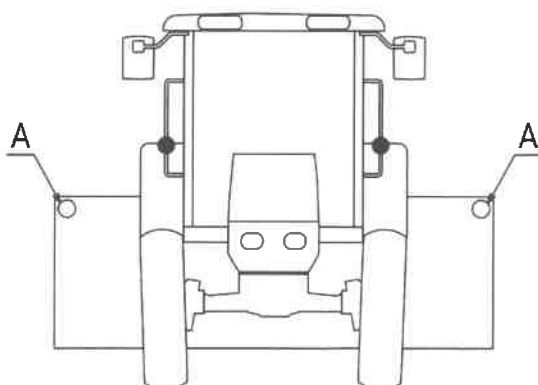
A.白色反射器	B.赤色反射器	C.制限標識
		 赤色 0.5cm 白色 1.5cm 赤色 0.5cm

●装備の取付け位置

道路運送車両法の保安基準により、各種灯火器類取付け位置が定められています。

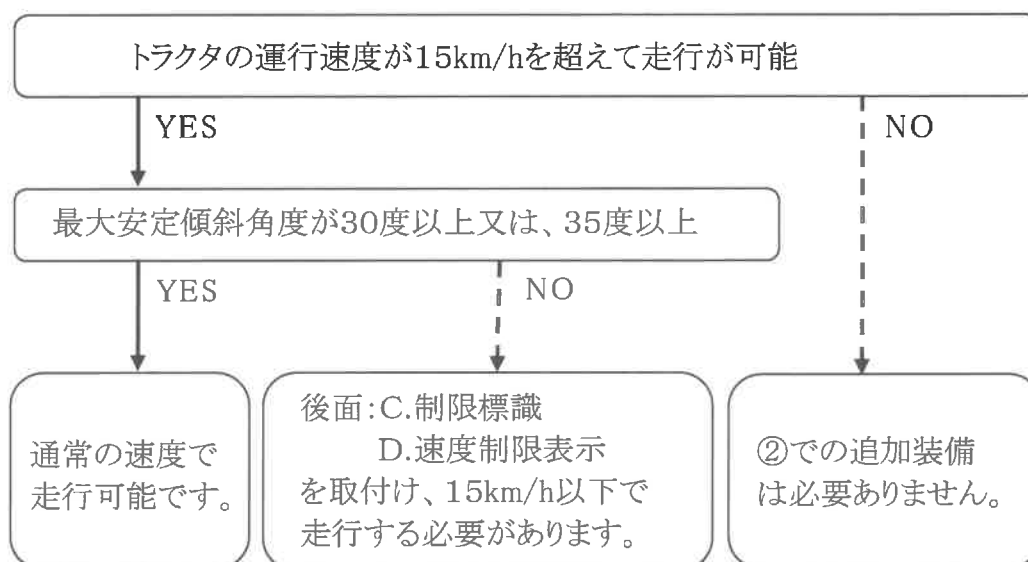
- ・ Aは前面の両側に、可能な限り最外側に取付けてください。
- ・ Bは後面の両側に、作業機の最外側から40cm以内、高さが地上25cm以上150cm以下の場所に可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・ Cは後方から確認（視認）できる位置に取付けてください。

(取付け例)



安全に作業するために

②トラクタの運行速度



- 運行速度が15km/hに制限されないトラクタと作業機との組合わせについては日農工のホームページ (<http://www.jfmma.or.jp>) をご覧ください。
- 最大安定傾斜角度が不明な場合は、運行速度15km/h以下で走行してください。

＜安定性に関して＞

作業機を装着した際に、最大安定傾斜角度が30度以上又は、35度以上（車両総重量が車両重量の1.2倍以上又は、積載により重心高さが上がるもの）であれば、通常ので速度で道路走行できます。

上記条件を満たさない場合は、

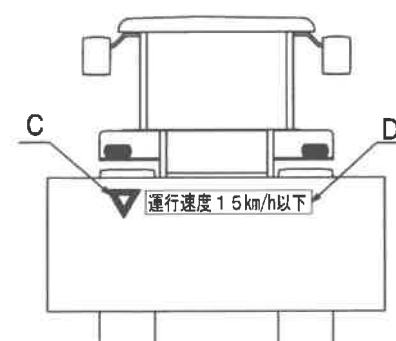
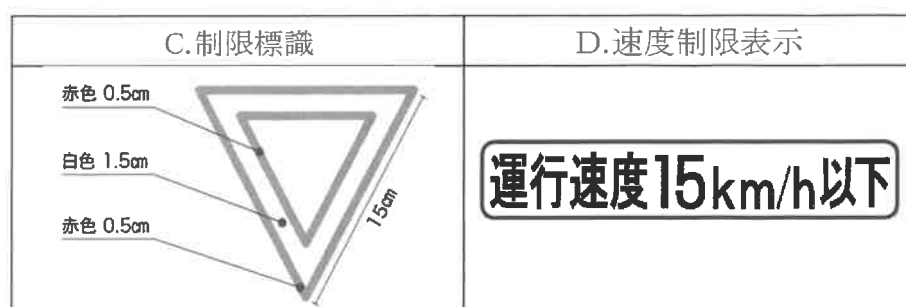
- ・運行速度15km/h以下での道路走行
- ・道路走行をする際に、Cを作業機に表示、
Dを作業機・運転席に表示
を行う必要があります。



●装備の取付け位置

- ・C、Dは後方から確認（視認）できる位置に取付けてください。
- ・Dは運転席にも表示する必要があります。

（取付け例）



⚠ 安全に作業するために

③トラクタの灯火器類（後部反射器、コンビネーションランプ（尾灯・制動灯・方向指示器）、後退灯）の視認性

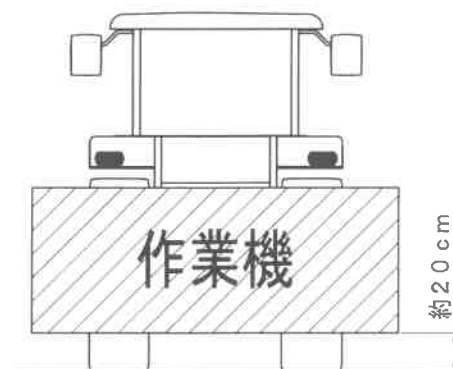
作業機の機体最下部を地面から約20cm上げた状態で後方から確認し、トラクタの灯火器類が視認できる。（※1）

YES

③での追加
装備は必要
ありません。

NO

- ・ 後退灯のみ視認できない場合は可能な限りトラクタ上で移設してください。
 - ・ 視認できない灯火器類は、作業機に取付ける必要があります。
- ※取付けは販売店にご相談ください。



●装備の取付け位置

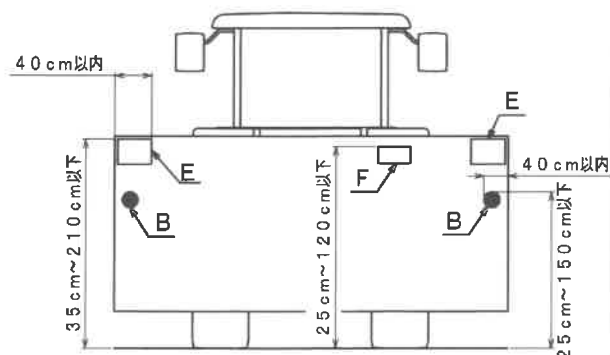
- ・ 各種灯火器類の取付け位置は以下のように定められています。

- 後部反射器（リフレクター） 最外側から40 cm 以内、高さは地上25 cm 以上150 cm 以下
- 尾灯（テールランプ） 最外側から40 cm 以内、高さは地上35 cm 以上210 cm 以下
- 制動灯（ブレーキランプ） 最外側から40 cm 以内、高さは地上35 cm 以上210 cm 以下
- 方向指示器（ウインカー） 最外側から40 cm 以内、高さは地上35 cm 以上230 cm 以下
- 後退灯（バックランプ） 高さは可能な限り25 cm 以上120 cm 以下

- ・ B、Eは後方から確認（視認）できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・ Fは後方から確認（視認）できる位置に、上記条件を満たすように取付けてください。

（取付け例）

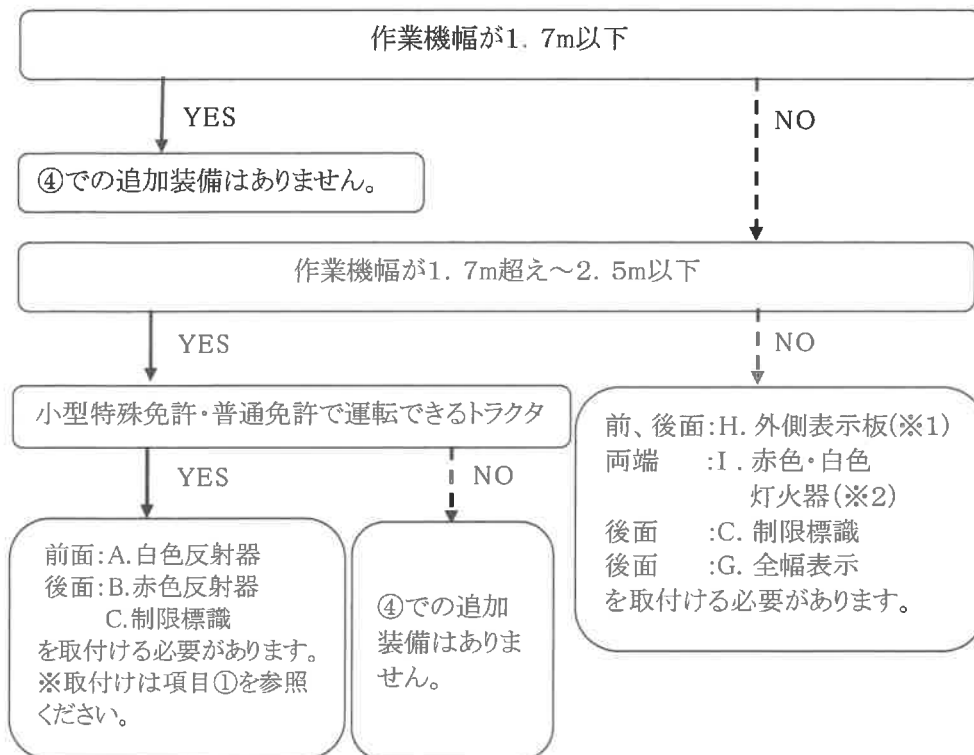
B.赤色反射器	E.コンビネーションランプ	F.後退灯



- ※1 単体で長さ4.7m以下、全幅1.7m以下、高さ2.0m以下、かつ、最高速度15km/h以下である農耕用トラクタの場合、尾灯・制動灯・後退灯は取付け義務が無い場合、確認の必要はありません。

安全に作業するために

④作業機装着時の全幅



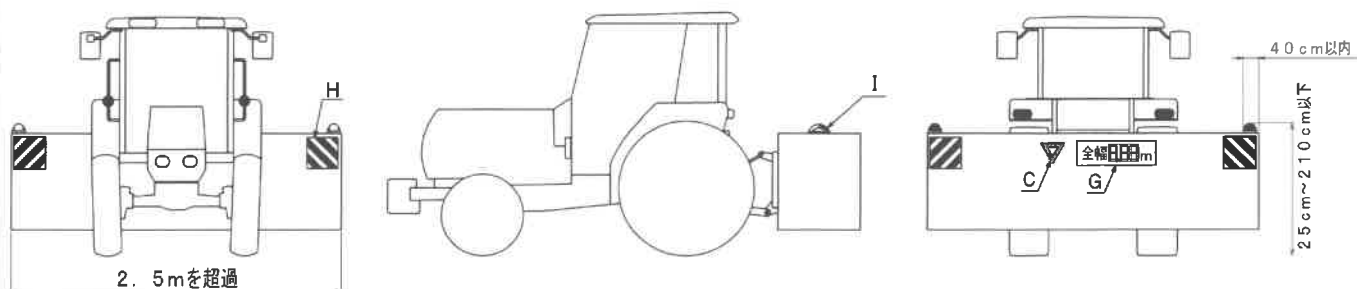
※1 トラクタの灯火器類が作業機の最外側から40cm以上ある場合、反射器が必要になります。しかし、当社の外側表示板は反射材を含んでいるため、反射器は取付け不要です。

※2 トラクタの灯火器類が作業機の最外側から40cm以内の場合、取付け不要です。

●装備の取付け位置

- ・ C、Gは確認（視認）できる位置に取付けてください。
- ・ Hは前後、両端に赤白ラインが「ハの字」になるように取付けてください。
- ・ Iは可能な限り最外側に取付けてください。また、前面が白色、後面が赤色になるようにしてください。

(取付け例)



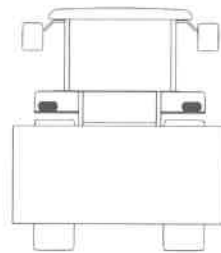
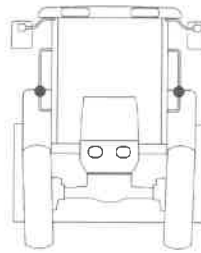
⚠ 安全に作業するために

灯火器類・ステッカー取付け例

トラクタに作業機装着時の寸法が、全幅2.5m、全高3.8m、全長12m以下の場合

(ア)

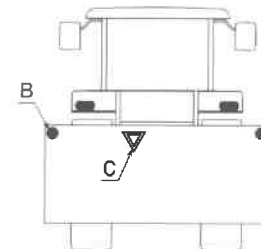
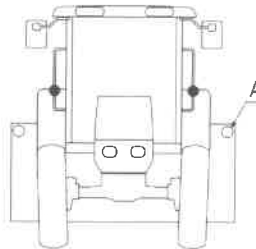
視認性による取付け部品無し



灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内の場合

(イ)

灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内、かつ小型特殊免許・普通免許で走行できるトラクタで幅1.7mを超える作業機を取付ける場合



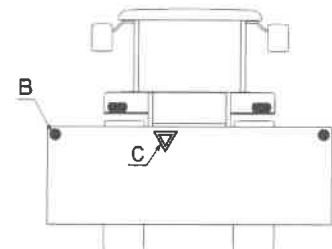
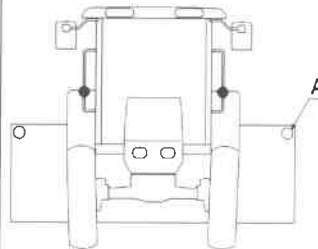
トラクタの灯火器類が全て視認できる場合

灯火器類の視認性

前照灯
車幅灯
尾灯
後部反射器
制動灯
方向指示器

(ウ)

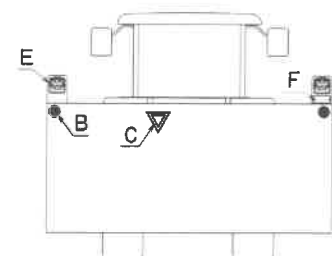
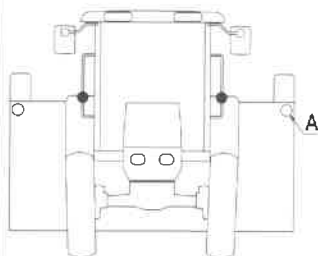
作業機の最外側から40cm以上離れている灯火器がある場合



(エ)

例：(ウ)に灯火器類を取付け

トラクタの灯火器類で視認できないものがある場合

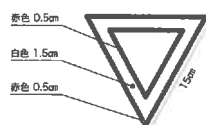


灯火器・ステッカー

A. 白色反射器 B. 赤色反射器



C. 制限標識



D. 速度制限表示

運行速度15km/h以下

E. コンビネーションランプ



F. 後退灯



G. 全幅表示

全幅8.88m

H. 外側表示板



I. 赤色・白色灯火器



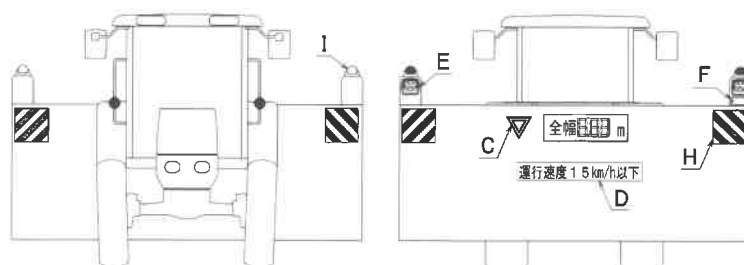
⚠ 安全に作業するために

灯火器類・ステッカー取り付け例

トラクタに作業機装着時の全幅が2.5mを超過する場合		
灯火器類の視認性 前照灯 車幅灯 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器	灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内の場合	(オ)
	トラクタの灯火器類が全て視認できる場合	(カ)
	作業機の最外側から40cm以上離れている灯火器がある場合	(キ) 例：(カ)に灯火器類を取付け
	トラクタの灯火器類で視認できないものがある場合	

※全幅が2.5mを超過する場合は、道路管理者（国道：地方道路局、県道：各都道府県、市道：各市町村）から特殊車両通行許可を得る必要があります。

p. 3「②トラクタの運行速度」を確認後、速度制限表示が必要な場合は取付けてください。
例：(キ)に速度制限表示を追加



●灯火器類取付けの際には、トラクタの操作と連動して点灯することを確認後に公道走行を行ってください。また、灯火器類・ステッカーが汚れたときは視認できるように掃除をしてください。

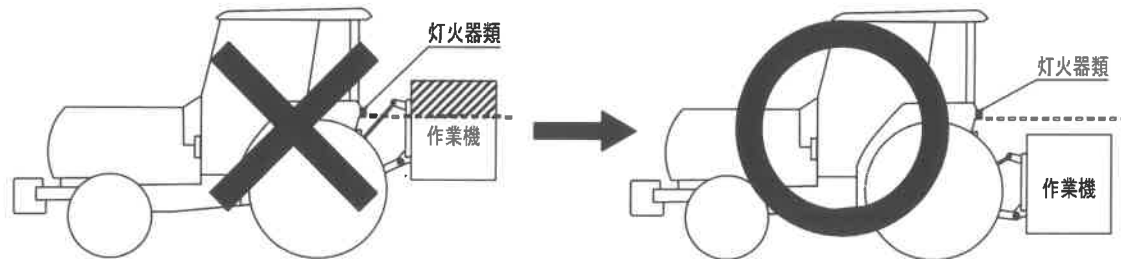
詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(<http://www.jfmma.or.jp/kouido.html>)をご覧ください。その他不明な点は、お買い上げ頂いた販売店にご相談ください。

⚠ 安全に作業するために

(4) 公道走行時の注意点

全ての直装作業機は、公道走行時の作業機高さについて下記の注意が必要です。

- トラクタの灯火器類が視認可能であれば、灯火器類を取付ける必要はありません。
灯火器類を取付けてない作業機は、下図のようにトラクタの灯火器類が見えるように作業機の高さを調整してください。



本製品の使用目的とサービスについて

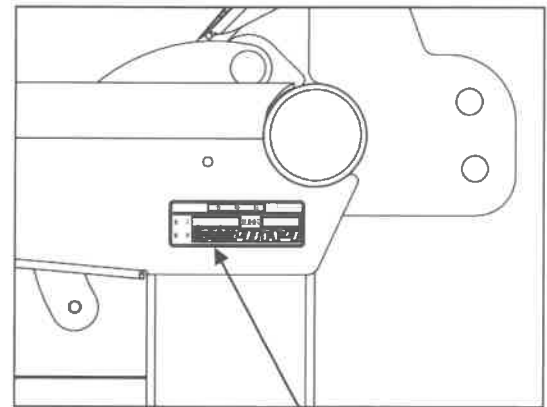
本製品の使用目的について

本製品は、粒状・砂状・の肥料やコンポスト肥料の散布作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断にしたがって
点検・処置しても、なお不具合があるときは、
お買い上げいただいた販売店、農協、
または、お近くの当社営業所までご連絡く
ださい。



機体銘板

【連絡していただきたい内容】

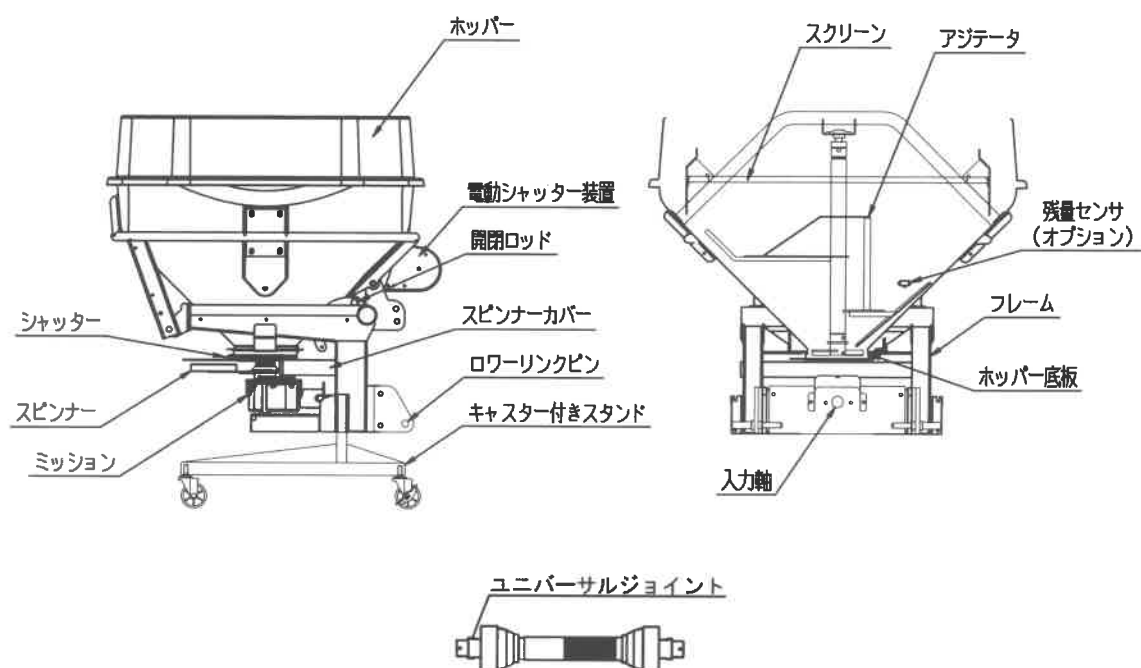
- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ
詳しく教えてください。

※機体Noは、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

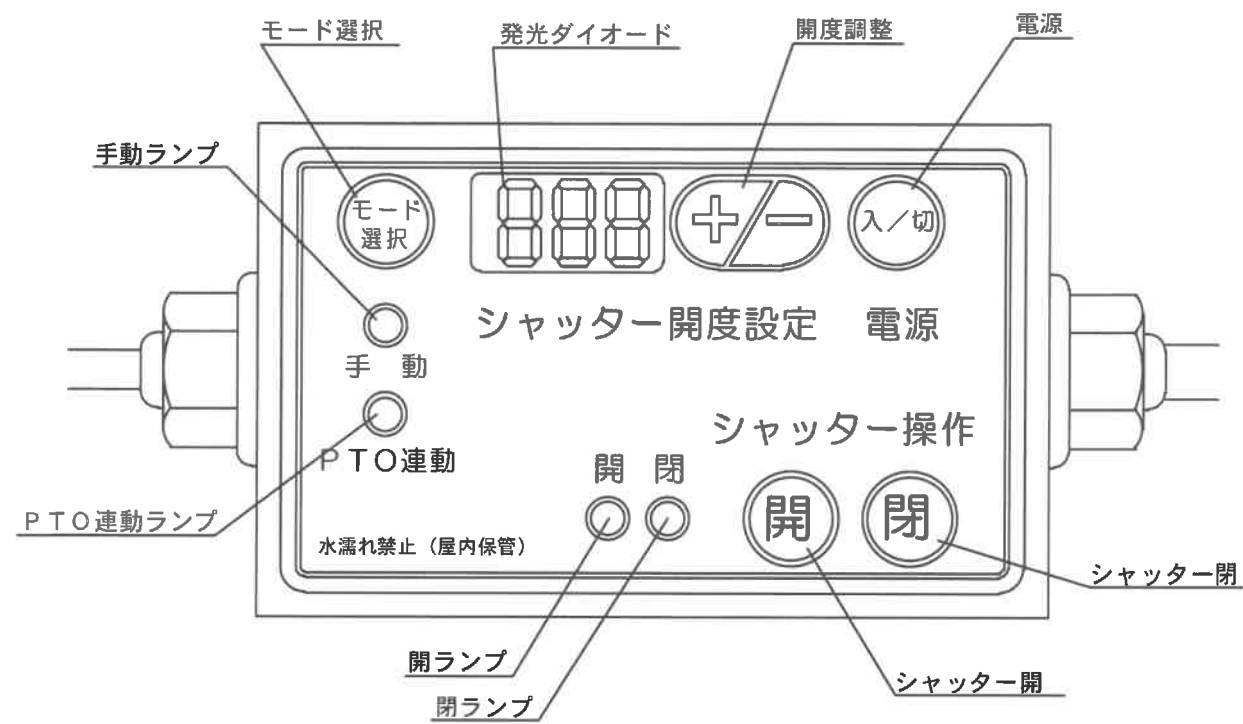
品 名	コンポキャスト
型 式	CC6001D、CC8001D
機 体 No. (SER-No.)	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL : ()

各部の名称とはたらき



名 称	は た ら き
ホッパー	肥料を投入するジョウゴ形の器
フレーム	全体の構成部を保持する
ローワーリンクピン	トラクタのローワーリンクと連結するピン
キャスター付スタンド	トラクタとの装脱着時及び保管時に使用する
ユニバーサルジョイント	トラクタのPTO軸の動力を本機の散布ミッション入力軸へ伝達するプロペラシャフト
入力軸	本機側の動力取入れ軸
電動シャッター装置	肥料散布のシャッターの開閉及び散布量を電動で調整する装置
開閉ロッド	シャッター開閉の作動をシャッターに連結するもの
ミッション	トラクタの動力をスピンナー部へ伝達する
ホッパー底板	ホッパー底板で肥料の落下を支える板
シャッター	肥料の落下繰り出し量を調整する
スピンナー	肥料を飛散させる回転円板
スピンナーカバー	肥料の散布方向を規制するカバー
アジテータ	ホッパー内を低速で攪拌し、ブリッジを防止するアジテータ
スクリーン	ホッパー内に大きな塊が入らないようにする網板
残量センサ (オプション)	肥料が残りわずかになった際に反応するセンサ

各部の名称とはたらき



名 称	は た ら き
電源	電源の入切を行います。
開度調整	シャッターの開度調整を行います。
発光ダイオード	シャッター開度具合を表示します。
モード選択	手動， P T O連動のモード切替をします。
手動ランプ	手動モードの時に点灯します。
P T O連動ランプ	P T O連動モードの時に点灯します。
シャッター開	シャッターを開ける作業を行います。
開ランプ	シャッター開時に点灯します。
シャッター閉	シャッターを閉じる作業を行います。
閉ランプ	シャッター閉時に点灯します。

トラクタへの装着

！ 警告

- トラクタへの本機の装着は平坦で安定した場所で行ってください。
- 3点リンケージへの装着はリンケージの動きに十分注意し、二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
- ユニバーサルジョイントは、必ずトラクタのエンジンを止め、PTOを切ってから確実に取付けてください。

以上のことを守らないと傷害発生の恐れがあります

1. 3点リンケージへの装着のしかた

◆3点リンケージの装着順序

左のロワーリンク、右のロワーリンク、トップリnkの順序で取付けてください。

◆トップリnk連結穴位置は

トラクタ側のトップリnk連結位置はトップリnkが最も角度がつくように最下部に取付けてください。

◆トップリnkの長さの調整

トップリnkの長さで本機のトラクタへの装着後の水平状態を調整します。標準作業時でスピナー部の地上高は、約60cmです。

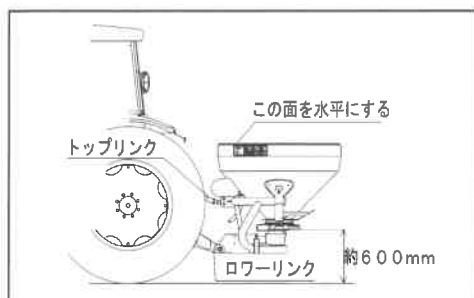
(詳細は作業方法の項参照)

◆チェックチェーンで横振れ調整

運搬時および作業時、本機の横振れを防止するために、チェックチェーンでトラクタ中心と本機中心が一致するように、左右均等に調整固定してください。

◆スタンドを取外してください。

3点リンケージの取付け・調整が終れば下図のようにスタンドを取外してください。



2. ユニバーサルジョイントの取付け

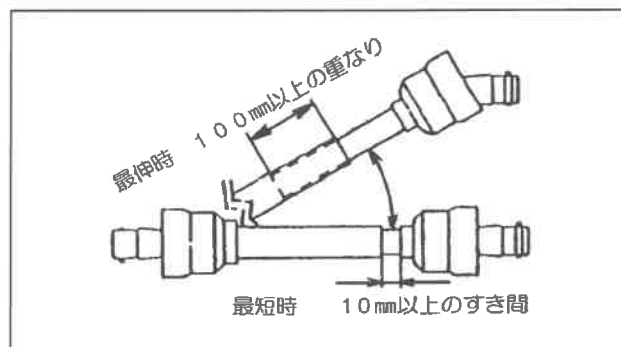
◆ユニバーサルジョイントの取付け順序

本機入力軸に取付けてから、トラクタPTO軸に確実に取付けてください。

◆ユニバーサルジョイントの長さ確認

ジョイントの長さは、3点リンケージによる本機の上昇・下降により変化します。先にジョイント長さが長すぎないかを確認してください。

長すぎるときは、下図の寸法が確保できるように切断してください。



注意

また、作業時のジョイント角度は、最大30度を超えないよう調整をしてください。30度を超えると、ジョイント破損の原因となります。

◆カバー回転止めチェーンで固定

ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕をつけてしっかりと固定してください。チェーンを張り過ぎると本機の上昇・下降の際にチェーンが切れる恐れがあります。

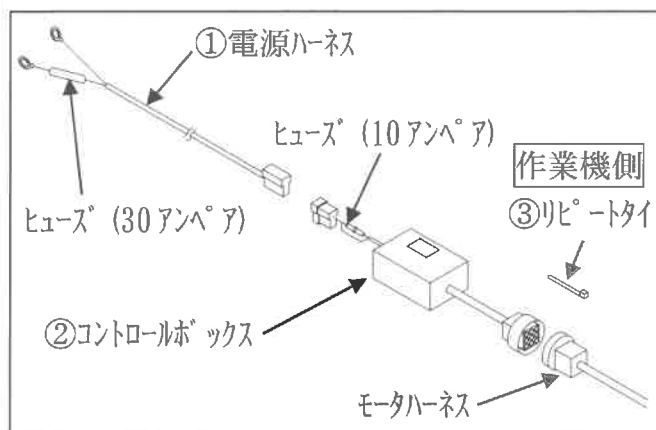
トラクタへの装着

3. コントロールボックスの装着のしかた

[1] ①電源ハーネスをトラクタのバッテリーと接続してください。

〔 白色線はバッテリーの (+) 極へ
黒色線はバッテリーの (-) 極へ
それぞれ接続してください。 〕

②コントロールボックスとモータハーネスを接続してください。



！ 警告

接続の順序は (+) 側から行ってください。
また、取り外すときは (-) 側から行って
ください。

逆にすると火花が飛び危険です。

注意

接続できるバッテリーの電圧は、12V
です。24Vのバッテリーには接続しな
いでください。誤って接続すると、コン
トロールボックス及びパルスモータが
破損します。

[2] ②コントロールボックスのハーネスを、
トラクタの3点リンケージの上下動に
対応できるよう十分に余裕をもたせ、回
転部等に干渉しないよう③リピーター
で本機に取付けてください。

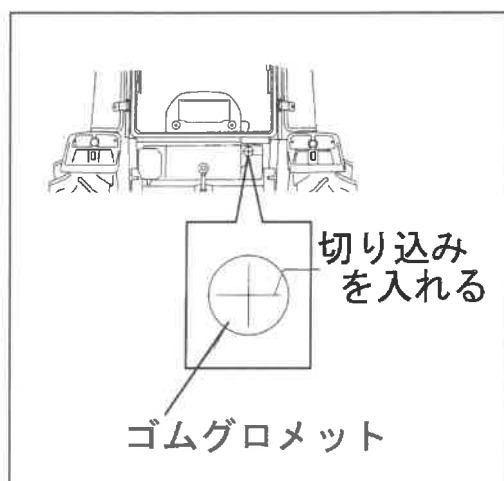
注意

使用前に各部の取付けに誤りがないか確
認してください。

ボルト、ナット等が確実に締め付けられ
ているか必ず確認してください。

◆トラクタのハーネスの通しかたについて

キャビン付トラクタでハーネスをキャビ
ン内に引き込む場合、キャビン後にゴムグ
ロメットがついている場合は、ゴムグロメ
ットにカッターナイフで切り込みを入れ、
ハーネスは必ずゴムグロメットを介して
通してください。



！ 警告

ゴムグロメットを外して通すと、電源
コードに傷がつき、思わぬ事故をおこす
恐れがあります。

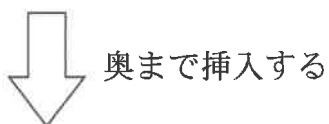
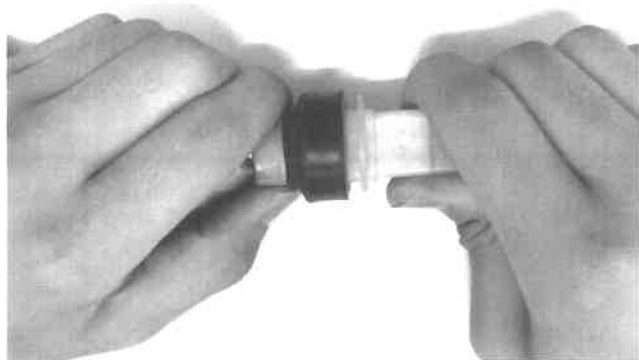
トラクタへの装着

◆コネクタの脱着方法について

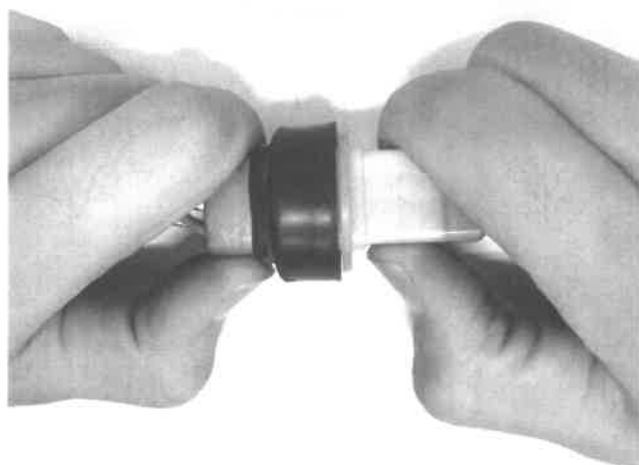
コネクタを接続するときは下の写真のようにコントロールボックス側のコネクタを作業機側のコネクタの奥まで挿入してください。

コネクタが挿入しづらい場合は「簡単な手入れと処置」にある「7. コネクタの保管と清掃について」をご参照ください。

コネクタを外すときは左右に引っ張ってください。



奥まで挿入する

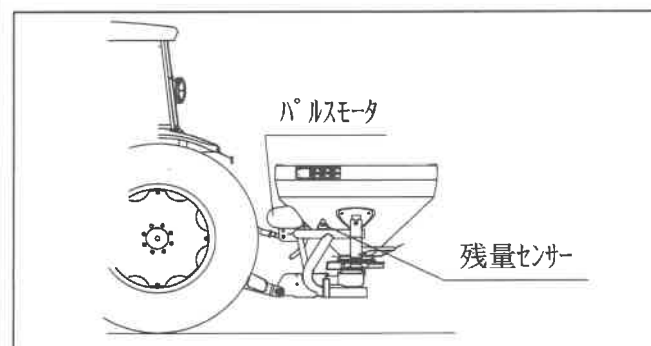
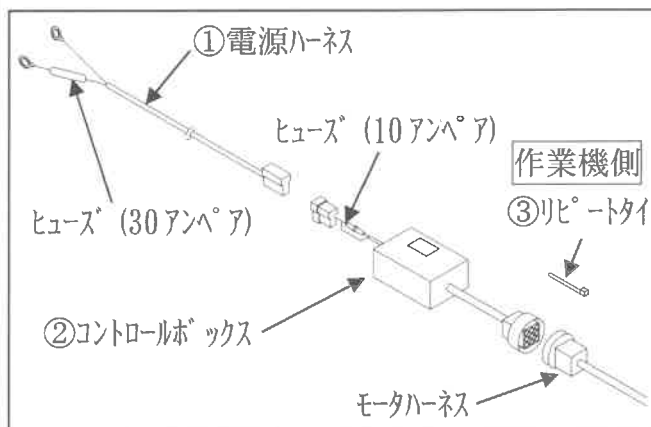


注意

ハーネスがコネクタから抜ける可能性がありますので、コネクタを外す際は必ずコネクタを持って左右に引っ張ってください。

4. 残量センサーアタッチ (オプション) の装着のしかた

オプションで残量センサーアタッチをご購入された場合も「3. コントロールボックスの装着のしかた」と同様にコントロールボックスを接続してください。



5. オートヒッチへの装着のしかた

◆装着できるオートヒッチは

本機に別売の CC-0S-L、CC-0L-L 各キット部品 (オプション) を組付けていただくと、各トラクタメーカー等で準備されている日農工規格標準オートヒッチ 0S および 0L 型のオートヒッチに連結ができます。

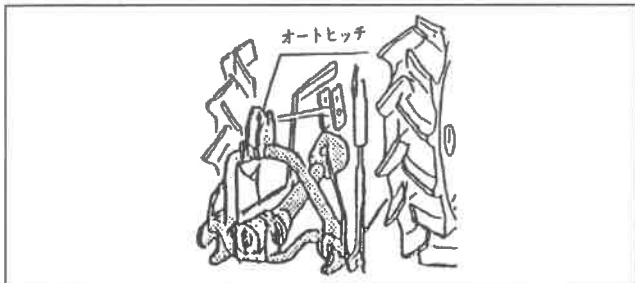
注意

別売部品についての詳細は、販売店にご相談ください。

トラクタへの装着

◆オートヒッチはトラクタ側に取り付けます

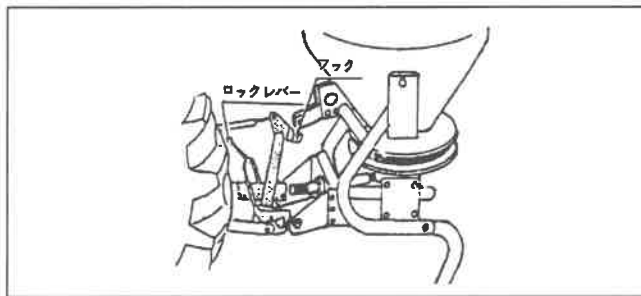
下図に示すように、トラクタの3点リンケージにオートヒッチを取付けます。オートヒッチに動力伝達用のユニバーサルジョイントが装着されているため、オートヒッチを使用すると3点リンケージの他にP T O動力も同時に接続できます。



◆本機との着脱は簡単にできます

トラクタの3点リンケージにオートヒッチを取付けて、右上図のようにオートヒッチのフックで、本機側のトップリンクピンを狙いすくい上げると、ローリンク部とユニバーサルジョイント部が連結されます。

連結後は、ロックレバーで必ずロックしてください。



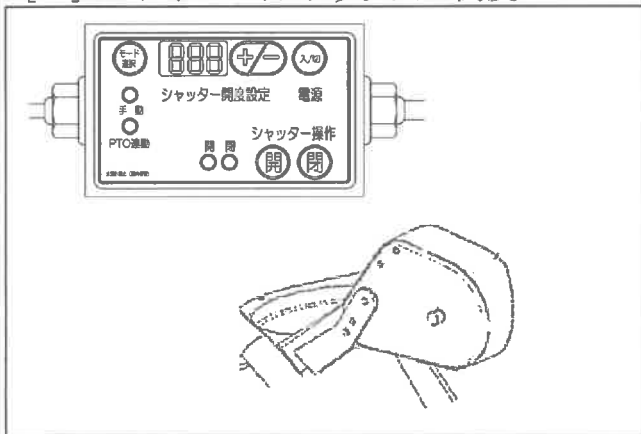
! 注意

- 装着時には、作業機をゆっくり上昇操作を行いトラクタと作業機が干渉しないか、特にキャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
- トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、装着時に必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。
又、作業機が勢いよく上がるため、10 cm以上の余裕を持って上げ規制を設定してください。
- 左右の水平調節に注意してください
- オートヒッチ側の5Pオートロータリ金具は取外してください。
そのまま使用されますと5Pオートロータリ金具とヒッチブラケットが干渉し、オートロータリが誤作動を起こす場合があります。

運転に必要な装置の取扱い

1. 電動シャッターの取扱い

[1] コントロールボックスの開度



- ・シャッターを閉にして、開度の「+/-」のボタンを押しシャッターの開度設定ができます。[+]を押すと液晶の表示が上がってシャッターの開度が大きくなり、また[-]を押すと表示が小さくなりシャッターの開度が小さくなります。
- ・コントロールボックスのシャッター開を押すと、表示のところまでシャッターが開きます。(開のランプが点灯します)

注意

異物等がかみ込み表示開度まで開かない場合は、全てのランプが点滅し、異常を知らせます。

- [2] 散布作業を停止または終了するときはシャッター閉を押します。(閉のランプが点灯します)
- [3] 作業の終了時には、電源 [入/切] を押してください。

注意

シャッターが閉の状態にあるときは、液晶の表示のみが点滅し、開度設定ができる状態を示していますので、異常ではありません。

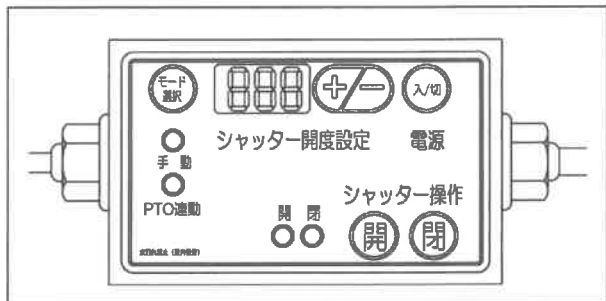
注意

過負荷によって、パルスモータのブレーキが落ちる場合があります。その際には、コントロールボックスの

電源を切り、ブレーキの自動復帰をお待ちください。

2. PTO連動の取扱い

- ・トラクタのPTOのON・OFFに連動してシャッターを開閉することができます。その機能を使用する場合は、次の要領にて操作してください。



- [1] コントロールボックスの電源を入れた状態で [モード選択] のボタンを押してPTO連動のランプを点灯させてください。(通常は手動が点灯します)
- [2] PTOを回転させたらシャッターが表示位置まで開きます。
- [3] PTO回転を止めたら自動でシャッターが閉じます。
- ・PTO回転中にシャッター [閉] を押せば [手動] モード [閉] になり、シャッターは強制的に閉じます。
- ・PTOモードを解除するときは、[モード選択] のボタンを押し [手動] に切替えてください。

! 警告

点検・清掃は必ず電源を切り、エンジンを停止してから行ってください。開閉シャッターは、停止直後に自動復帰回路が働く場合がありますので、停止後数秒間は近づかないでください。

これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

運転に必要な装置の取扱い

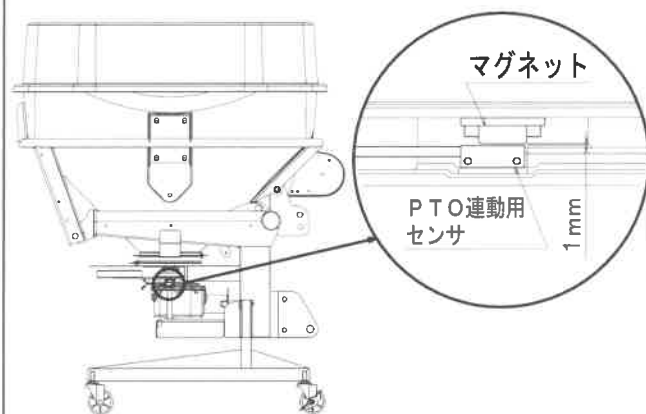
電動シャッター使用上の注意

- 作業前は、シャッターの開閉点検を行ってください。開閉の作動がスムーズでないときは、シャッター部の清掃を行ってください。
- コントロールボックスの水濡れは故障の原因となります。屋内にて保管してください。

PTO連動用のセンサについて

PTO連動用センサは下図の位置に取り付けられています。PTOのON・OFFに連動してシャッター開閉が行われない場合は、

- センサとマグネットのスキマの間隔が約1mmあること
- PTO連動中に、PTO回転数が170回転以上でシャッターが開くことを確認してください。



注意

PTO連動時にトラクタの自動昇降機能を使用していると、PTOが高速回転のまま接続され破損する恐れがあります。

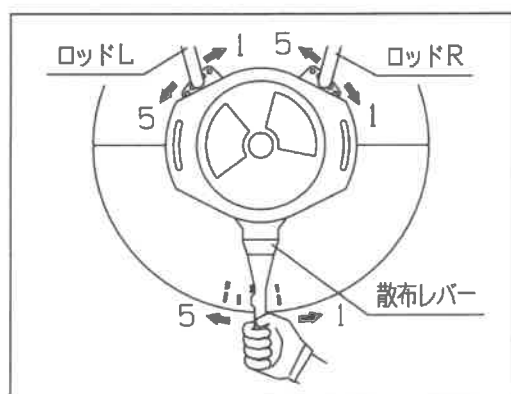
PTO連動使用時はPTOの回転数に注意してください。

3. 散布方向の調整

肥料の種類や比重の違いにより、散布肥料の分布が片寄ることがあります。

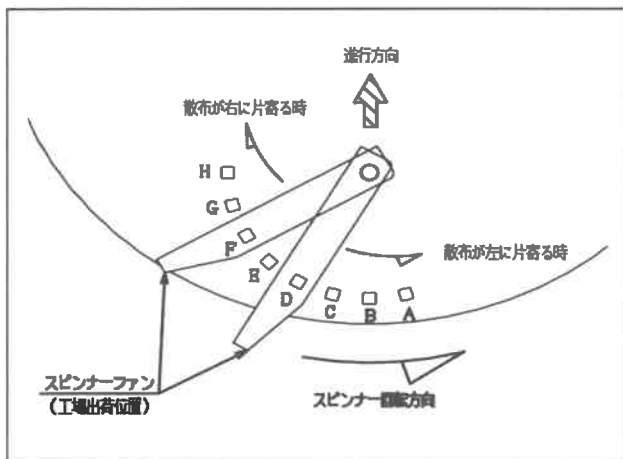
- 散布の中心部が片寄る場合は、散布レバーを左右に動かすことにより、散布の左右の片寄りを調整することができます。
- 散布レバーで、散布片寄りの調整を行なう場合は、ロッドR、Lの穴位置も下表に合わせて入れ換えて下さい。

散布片寄り	穴位置
左に片寄るとき	1
初期位置	3
右に片寄るとき	5



- 散布レバーの調整をしても片寄りが修正できない場合は、スピナーファンの位置を組み替えてください。
- 出荷時は含水率40%程度のコンポストに合わせたDの穴2か所、Fの穴2か所にスピナーファンを固定しています。
- 散布が左に寄る場合（主に低水分コンポスト）はA～Cの穴、右に寄る場合（主に高水分コンポスト）は、G～Hの穴に組み替えてください。
- 粒状肥料の場合は、D～Fの穴を使用してください。
- 砂状肥料の場合は、D～Gの穴を使用してください。

運転に必要な装置の取扱い



警告

- スピンナーファンの調整をする前に必ずトラクタのエンジンを停止してください。
- 必ず軍手等の保護具をつけて調整作業を行ってください。

これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

注意

散布作業に入る前には、後方に人や動物がいないことを十分確認してください。

危険

作業開始時には、ホッパー内に肥料が満載されているため、トラクタの重量バランスをくずしやすい状態です。急激な走行クラッチの接続は危険です。走行クラッチの接続には十分注意してください。

4. 残量センサ（オプション）

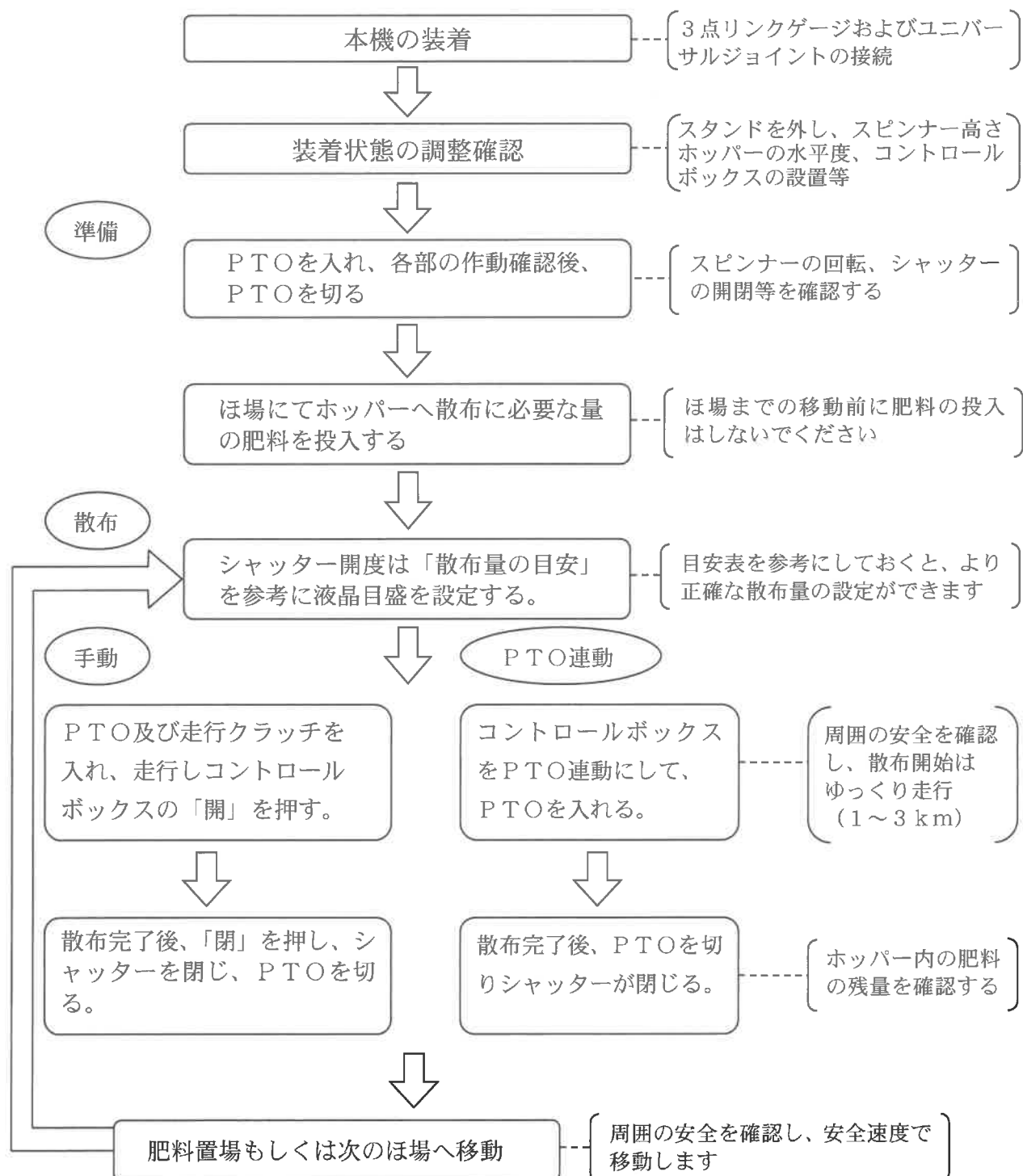
開のランプが点灯している状態では、残量センサが反応すると、長い断続音で肥料が残り少ないことをお知らせしますので、ホッパーに肥料を追加してください。

注意

肥料の水分が多く残量センサ上に肥料が張り付いた時や、雨等による水濡れにより残量センサが機能しない場合があります。

作業方法

1. 作業手順と要点



散布できないコンポスト

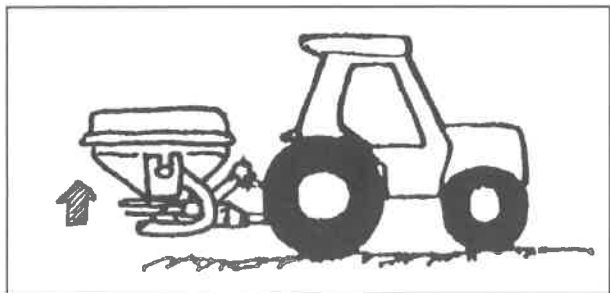
下記に示すようなコンポストはブリッジを起こしたり、シャッター口に詰まったりする事があります。絶対に散布しないでください。

- ①含水率が45%以上あるコンポスト
- ②木の皮、その他の雑物の混入したコンポスト
- ③破砕されていない固まりの混入したコンポスト 等々

作業方法

2. 移動するときは

必ず本機を十分な高さまで3点リンケージで吊り上げてから、走行してください。



⚠ 警告

- ①本機を装着して運転するときは、道路および、まわりの条件に適した速度で行ってください。
絶対に急発進・急ブレーキ・急ハンドルは行わないでください。
- ②カーブを曲がるときは、重心の変化や機械の幅に十分注意してください。

3. ホッパーに肥料を投入するときは

- ①3点リンケージの位置を最下位まで下げ肥料が投入しやすい状態にしてから、一旦トラクタのエンジンを停止し、肥料を入れてください。

⚠ 警告

肥料をホッパーへ投入する時は、本機のフレーム部に足をかけたり、乗ったりしないでください。

足を滑らせ、転倒し、傷害を受ける危険があります。

- ②肥料は散布に必要な適正量のみホッパーへ投入してください。不必要な量の肥料は後作業にムダを発生させます。

注意

肥料は必ず、散布ほ場へトラック等で、あらかじめ運んでおいてから、散布作業の直前にホッパーへ投入するようにしてください。

ホッパー内に肥料を入れたまま運搬すると、輸送中にホッパー内で圧縮され、ブリッジ現象による繰出し不良や、不均一散布の原因となります。

4. 肥料の混合・攪拌方法について

◆散布する前にホッパー内で混合攪拌する場合

- ①混合する量の多い順にホッパー内へ投入してください。
- ②全種全量投入後、エンジンをかけ、PTOを入れ、アジテータを回転させて肥料を混合攪拌してください。
- ③混合が十分できたら散布してください。

注意

尿素は空気中の水分を吸収し、他の混合物を硬化させる性質があります。混合は避け、尿素単肥として散布してください。同様に古い湿った肥料は避けてください。

アジテータより上部の肥料は混合できません。混合する際には肥料の投入量を400リッターに減らしてください。

(投入量の目安：スクリーン以下)

ビニール片やヒモ等が混入するとアジテータに絡んだり、繰出し口に詰まったりして機械の破損の原因となりますのでご注意ください。

作業方法

⚠ 危険

- ①肥料には混合の適否があります。必ず安全性を確認してから混合してください。
- ②混合の可否が不明な肥料については、必ず肥料メーカーにご相談ください。

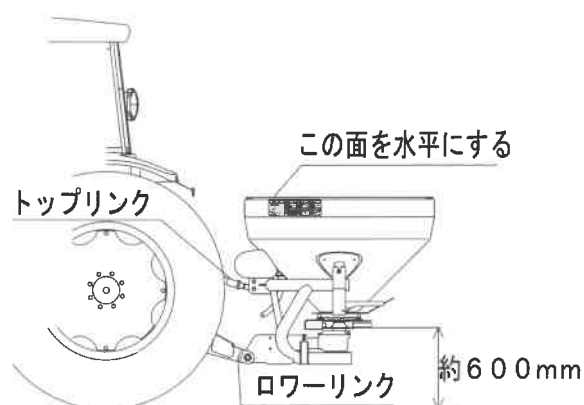
⚠ 警告

混合作業中であってもトラクタのPTOを入れているとスピナーが回転しています。回転中のスピナーは大変危険なため、近づかないようにしてください。

5. 散布高さの調節について

スピナー部の地上高さが、下図のように約60cmになるようにトラクタの3点リンケージの油圧レバーで高さを調節してください。

また、スピナー部（目安としてホッパー上面）が水平になるよう、トラクタのトップリnkの長さで調節してください。



作業方法

6. 散布量の設定及び調整について

「10 アールあたりの散布量に対する開度目安表（単位 %）」から「肥料の種類」→「散布量」→「車速」を選択します。そこから指し示めされる値がシャッター開度 [%] になりますので、コントロールボックスにその開度を設定します。

《例》

コンポストを 10 アールあたり 60kg 散布したい場合、下表から次の案を選択できます。
 車速 3 [km/h] でシャッター開度 71 [%]
 車速 6 [km/h] でシャッター開度 88 [%]
 車速 9 [km/h] でシャッター開度 96 [%]

10アールあたりの散布量に対する開度目安表（単位 %）

開度設定した後には

肥料の種類・湿度やタイヤのスリップ等で実際の散布量とは異なります。表はおおよその目安として利用し、予め面積が分かっているほ場を散布して、開度の調整を行ってください。

車速 散布量		肥料の種類		
車速	散布量 kg/10a	コンポスト 散布幅 6.5m	粒状肥料 散布幅 7.5m	砂状肥料 散布幅 7.5m
3 km/h	10	42	27	7
	20	48	31	13
	30	56	34	20
	40	63	37	22
	50	67	39	24
	60	71	41	26
	80	78	44	28
	100	83	47	29
	150	91	53	33
	160	92	54	34
	200	97	58	37
	250	—	62	41
	300	—	65	44
	350	—	68	48
	400	—	—	51

001207002591

車速	散布量 kg/10a	コンポスト 散布幅 6.5m	粒状肥料 散布幅 7.5m	砂状肥料 散布幅 7.5m	車速	散布量 kg/10a	コンポスト 散布幅 6.5m	粒状肥料 散布幅 7.5m	砂状肥料 散布幅 7.5m
6 km/h	10	48	31	13	9 km/h	10	56	34	20
	20	63	37	22		20	71	41	26
	30	71	41	26		30	81	45	29
	40	78	44	28		40	88	49	30
	50	83	47	29		50	93	53	33
	60	88	49	30		60	96	56	35
	80	94	54	34		80	100	61	40
	100	99	58	37		100	—	71	44
	150	—	65	44		150	—	—	53
	160	—	66	46		160	—	—	55
	200	—	—	51		200	—	—	61
	250	—	—	56		250	—	—	65
	300	—	—	61		300	—	—	—
	350	—	—	64		350	—	—	—
	400	—	—	67		400	—	—	—

001207002611

注意

肥料の種類・湿度やタイヤのスリップ等で実際の散布量とは異なります。表はおおよその目安として利用し、予め面積が分かっているほ場を散布して、開度の調整を行ってください。
 最初に使用されるときは目標の散布量の半分を目安として、2度播きすることをおすすめします。

注意

被覆肥料を散布されるときは、肥料の種類により、散布時に被覆膜に傷をつけてしまう場合があります。
 散布前に肥料メーカーに散布方法等について十分確認を行ってください。

作業方法

7. 散布作業の方法について

◆作業手順について

- ①P T Oを入れ、コントロールボックスのシャッター「開」を押し、シャッターが設定の開度まで開いたかを確認してください。(P T O連動はP T Oを入れる前に「開」を押してください。)
- ②肥料が本機後方に散布されるのが確認できたら、走行クラッチを入れ、走行を開始してください。

注意

本機による肥料の後方への散布距離は、最大約4～7.5m、左右への最大散布幅は8～15mあり、散布肥料により異なりますが、作業開始位置と旋回位置は、この距離を考慮して作業してください。

！ 危険

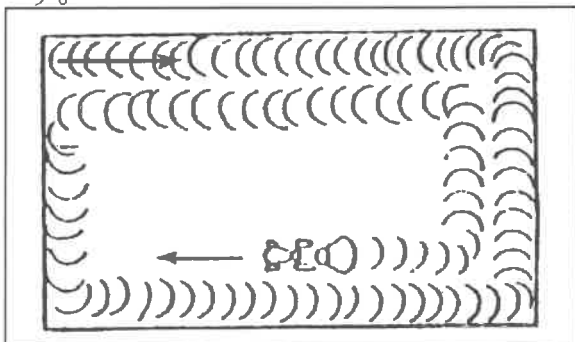
走行開始時には、ホッパー内に肥料が満載されているため、トラクタの重量バランスをくずしやすい危険な状態にあります。

急激な走行クラッチの接続はやめてください。

注意

より均一な散布を行うためには、散布作業中のトラクタの走行速度を一定に保つようにしてください。

- ③ほ場内での走行は、下図のように旋回しながら散布すると均一な散布ができます。



注意

ほ場が広い場合は、作業前にホッパー容量と散布量を考慮の上、あらかじめ、ほ場の各所に肥料袋を置いておくと能率のよい作業が行えます。

！ 注意

散布作業に入る前には、後方に人や動物のいないことを確認してください。

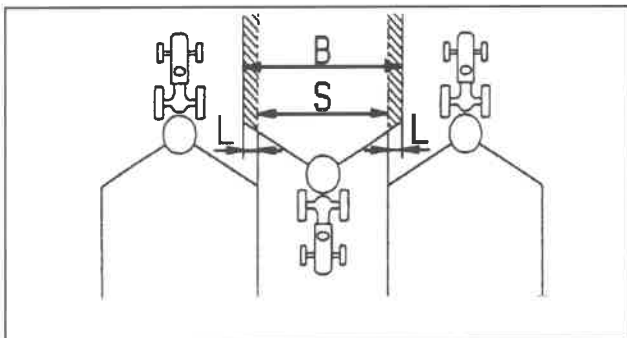
作業方法

8. 散布幅について

- 散布幅は肥料の種類、スピナーの回転速度、スピナーの地上高や風などに影響されます。
一般的には、大きい粒子の肥料の場合やPTO回転速度が速いほど、またスピナー位置が高いほど散布幅が広がります。上記と逆の場合や背の高い作物の中で使用すると、散布幅が狭くなります。

注意

- 本機のPTO最大使用回転速度は $540 \text{ min}^{-1} (\text{rpm})$ です。
この回転速度以上で使用すると本機損傷の原因となります。
- 肥料の種類によっても散布幅が変わります。肥料の種類や特性により散布幅の適切な重複を得ることが必要です。



	コンポスト	粒状	砂状
S:有効散布幅	6.5m	7.5m	7.5m
L:重複幅	2.8m	3.3m	1.3m
B:最大散布幅	12m	14m	10m

9. 傾斜地での作業

◆必ず直角走行、急ハンドル禁止

斜面に対して直角方向に走行し、旋回は速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。



警告

斜面の等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので決して行わないでください。

10. PTOの回転速度

PTOをつなぐ時は必ずエンジン回転を低速にしてください。高速回転で接続すると機械の寿命を著しく縮めます。

11. 肥料混合時の注意

- ①肥料をホッパー内へ投入するときは、エンジンを止め、カクハンアーム、スピナー等、各部の作動停止を確認してから投入してください。
- ②肥料には混合の適否があります。必ず、下表を参考にして安全性を確認してから混合してください。
- ③混合の可否が不明な肥料については、必ず肥料メーカーにご相談ください。

《記号の見方》

○印：混合しても良いもの

▲印：混合したらすぐに散布すべきもの

×印：混合してはならないもの

『肥料便覧より』

注意

尿素は空気中の水分を吸収し、他の混合物を硬化させる性質があります。混合は避け、尿素単肥として散布してください。同様に古い湿った肥料は避けてください。

生石灰は水と反応し、可燃物を発火させるほどの熱を発生することがあります。水との接触は避けてください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。
作業前の点検は、欠かさず行ってください。

 敬告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときはトラクタのP T Oを切り、エンジンを停止させ、回転部が止まってから行ってください。

点検一覽表

No	項 目	内 容	参照ページ	チェック
1	ユニバーサルジョイント	取付けが完全か	2 0	
2	各部のボルト・ナット	緩み、ガタつきがないか	—	
3	アジテータ・スピナーファン	特に摩耗していないか	2 5	
4	各部の回転	アジテータ、スピナーの回転は正常か	—	
5	電動シャッターの作動	スムーズかつ開閉が確実か	2 4	
6	各部への注油・グリスアップ	各部への給油は十分か	3 6、3 7	

異常が認められない場合は、PTO回転速度を450～540 min⁻¹(rpm)まで徐々に上げ、1～2分間ならし運転を行ってから作業を始めてください。

[illegible]

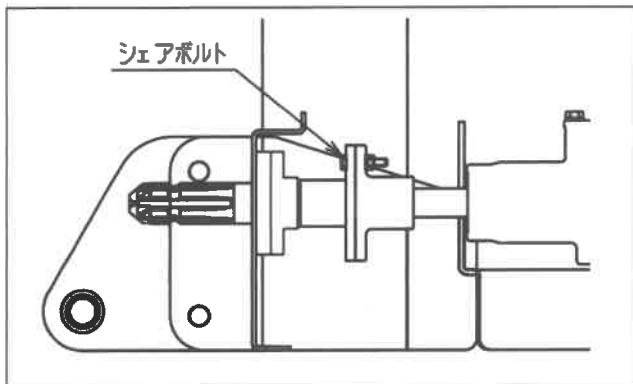
簡単な手入れと処置

！ 警告

- ①各部の調整をするときは、P T Oを切り、エンジンを停止させて回転部が完全に止まってから行ってください。
- ②取外したカバー類は必ず取付けてください。

1. シェアボルトの交換

◆本機にはコンポスト用アジテータに急激な過負荷が作用した場合、本機の損傷を防ぐための安全装置としてシェアボルトを下図の位置に装備しています。過負荷が作用したとき、このシェアボルトがせん断され、本機主要部の損傷を防止します。



※シェアボルトの予備は、ホッパー部のフレームに固定されています。

◆シェアボルト及びナットのサイズ

- | | |
|----------|-------------------|
| ・シェアボルト | M 6 × 3 0 (4 T) |
| | 半ネジ — 1 ヶ |
| 部品コード | 01114-0060-300 |
| ・ナイロンナット | M 6 — 1 ヶ |
| 部品コード | 02311-4001-060 |

！ 注意

- シェアボルトの交換は必ずエンジンを停止し、回転部が止まってから行ってください。
- シェアボルトは、指定以外は絶対に使用しないでください。

2. 肥料の適・不適について

- 散布可能なコンポストは含水率 4 5 % 以下で、長い繊維質（ワラ、木の皮等）を含まない完熟のものです。
- 含水率 4 5 % 以上のコンポストはブリッジを起こしやすく、散布ムラの原因となります。また、肥料を攪拌する負荷が大きいため、シェアボルトが切れやすくなります。この場合は肥料の投入量を 2 割程減らしてください。
- 含水率 4 5 % 以上の目安は、握って固まる状態です。

注意

長い繊維質やビニール片が混入しているとシャッターに詰まったり、アジテータに巻き付くため散布できません。

注意

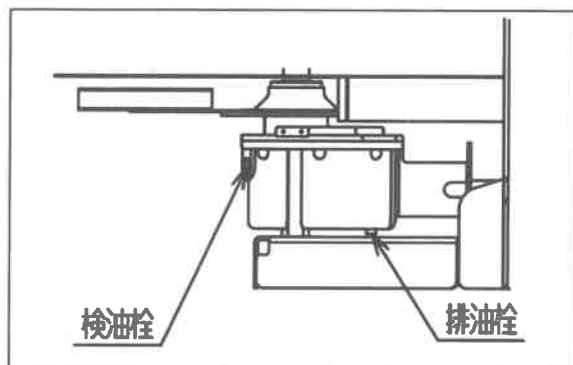
大きな異物、塊等が混入するとシェアピンが切れずにアジテータ下部の接続ボルトが切断されたり、ホッパーを破損させたり予想できない現象が発生する恐れがありますので異物が混入しないように注意してください。

簡単な手入れと処置

3. 散布ミッションのオイル点検

毎作業前に、検油栓までギヤオイルが入っていることを確認し、不足している場合は検油栓の位置まで給油してください。

#90ギヤオイル 約0.6ℓ



●オイル交換時期

1回目：30時間

2回目以降：年1回シーズン始め

4. 日常の管理について

- シャッター部に水分が付着していると、肥料の繰出しが悪くなります。
水分や付着物を乾いた布で拭き取ってから使用してください。
- スピナーファンに肥料が付着していると散布性能が変化します。いつも、きれいにしておいてください。
- 使用後は、ホッパー内に肥料を残したまま放置しないでください。肥料が固まって故障の原因となります。
- 作業終了後は、常に掃除をするように心掛けてください。

！ 警告

残った肥料の取出しや掃除をするときは、PTOを切り、エンジンを完全に停止させてから行ってください。

5. 長期格納時の手入れ

- コントロールボックスを外して、屋内保管してください。また、湿気が溜まり易

い場所での保管は乾燥材と一緒に保管してください。

- 水洗いをして、付着した肥料や埃などを落とし、異物を取除いてください。
- ☆苛性カリを含んだ肥料を散布した後は、特に念入りに水洗いを行ってください。
- 乾燥後は、各回転・摺動部には十分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、補修塗料等を塗って錆びが出ないようにしてください。
- 各部のボルト、ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいるときには締めてください。
- 格納する場所は、雨や埃のかからない屋内に保管してください。
- 格納は、平坦なところで保管してください。

6. 使用済廃棄物の処分について

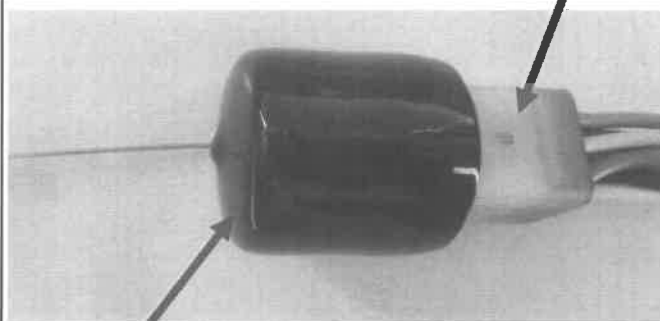
機械の廃油等廃棄物をむやみに捨てるとう環境汚染になります。機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。地面へのたれ流しや川、沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・その他有害物を捨てるときには、販売店、又は産業廃棄物処理業者に依頼してください。

簡単な手入れと処置

7. コネクタの保管と清掃について

コントロールボックスを外して保管する場合、機材側コネクタにゴミが混入しないように、コネクタ先端に付属のハーネスキャップを取り付けてください。

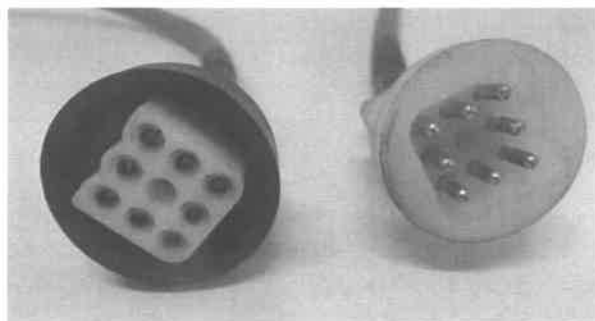
作業機側コネクタ



ハーネスキャップ

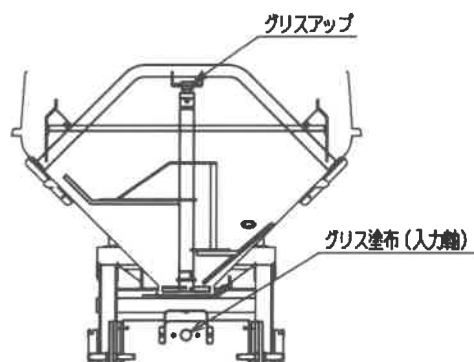
泥などが入るとコネクタ内の防水用ゴムの潤滑が低下し、コネクタの接続が固くなります。

泥など混入した場合、エアースプレーで掃除し、綿棒などで防水用ゴムにシリコングリスを塗布してください。



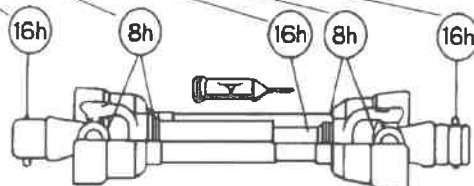
8. 各部への注油

下図のところに指定時間（h）毎グリスアップしてください。



〈グリスアップ〉ユニバーサルジョイント各部

*（詳細は貼付ラベル参照）



不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ペ ー ジ
●散布跡に濃淡がある	●散布幅に対し、重複散布をしていない	●有効散布幅に対し、適切な重複散布幅を設ける	3 2
●散布方向が片寄る	●散布中心と走行中心が一致しない	●スピナーファンの角度調整 ●スピナーをずらす	2 5
●散布量が安定しない	●アジテータ・シャッター開口部に異物が絡まっている ●ホッパー内で湿った肥料が詰まっている	●エンジンを止めて異物の除去 ●乾燥した肥料に入れ換える	4 2 4 2 8 3 5
●散布量が少ない	●上記項に同じ ●シャッターの開口穴より肥料の粒径の方が大きい	●上記項に同じ ●シャッター開度を十分大きくして作業速度を速くする	3 0
●散布幅が狭い	●スピナーファンもしくはスピナーが摩耗している ●P T O回転速度が出ていない	●新しい部品と交換する ●適正P T O回転速度 最大 5 4 0 min ⁻¹ (rpm) まで回転を上げる	2 5 3 2
●シェアボルトが切れる	●P T Oクラッチの接続操作を高速回転で行っている ●コンポストに異物が混入している ●肥料を攪拌する負荷が大きい	●低速回転にしてから、クラッチ操作を行う ●異物を取り除く ●肥料の投入量を減らす	3 2 — 3 5
●シャッターが開かない	●シャッターが開・閉を繰り返した後、すべてのランプが点滅する ●過負荷によりパルスモータのブレーカが落ちている ●ヒューズが切れている ●ハーネスが断線している ●パルスモータが故障している	●かみ込んでいる異物を取り除く ●コネクタの接触不良が起きているため、しっかりと奥まで挿しこむ ●コントロールボックスの電源を切り、パルスモータの復帰を待つ ●ヒューズを交換する ●ハーネスを点検する ●パルスモータを交換する	2 4 2 1 2 4 2 2 4 0 2 2
●P T OのONに連動してシャッターが開かない	●P T Oセンサが反応していない	●P T Oセンサとマグネットのスキマの距離、P T O回転数の確認後、反応しない場合は交換する	2 5
●残量センサ（オプション）が反応しない	●センサ上面に肥料が張り付いている ●雨等によりセンサが濡れている	●センサ上面に張り付いた肥料を取り除く ●水分を拭き取り、乾燥させる	2 6 2 6

付 表

1. 主要諸元

		スピナータイプ	
型 式		CC6001D	CC8001D
名 称		コンポキャスト	
装 着 方 法		3点リンク直装式／カテゴリⅠ・Ⅱ	
駆 動 方 法		PTO駆動（回転速度 540min ⁻¹ [540rpm]）	
適応トラクタ（kW {PS}）		33.1～58.8 {45～80}	44.1～88.3 {60～120}
機 体 寸 法	全 長（mm）	1330	
	全 幅（mm）	1500	
	全 高（mm）	1600	
質 量（kg）		240	245
ホッパー容量（ℓ）		600	800
ホッパー地上高さ（mm）		1120	1260
最大散布幅（m）		コンポスト 12、粒状肥料 14	
有効散布幅（m）		コンポスト 6.5、粒状肥料 7.5	
作業能率（分／10a）		コンポスト 2.2～5.1、粒状肥料 1.9～4.4	

※装着方法はCC6001Dに限り、日農工規格「標準0Sオートヒッチ」

「標準0Lオートヒッチ」の適応機種もあります。

※最大散布幅、有効散布幅は肥料の比重や形状によって異なる場合があります。

※作業能率は有効散布幅を基準とした値です。

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

※使用されるトラクタによっては、フロントウエイトが必要となります。（2ページ参照）

※全高はスタンド装着時、質量はスタンド、ジョイントを含んだ値になります。

付 表

2. 主な消耗部品

部 品 名 称	部 品 コ ード	備 考
シェアボルト	0 1 1 1 4 0 0 6 0 3 0 0	M6×30 (4T) 半ねじ
ナイロンナット	0 2 3 1 1 4 0 0 1 0 6 0	M6
スピナーファン	4 6 1 0 5 3 1 3 2 0 0 2	
スピナーカバー	4 6 1 0 5 3 1 3 5 0 0 0	
シャッターブッシュ	4 6 1 0 5 3 1 4 2 0 0 0	
シャッターダストカバー	4 6 1 0 5 3 1 4 3 0 0 0	
ヒューズ	0 0 9 0 0 0 1 0 0 1 0 0	10アンペア
ヒューズ	0 0 9 0 0 0 1 0 0 3 0 0	30アンペア

3. 回路図

No	線 色	名 称	No	線 色	名 称
1	白	12V	8	緑	12V
2	黒	アース	9		
3	茶	アース	10	青	PTO
4	白	モーター逆転	11	オレンジ	残量
5	赤	ハ°ルス A	12		
6	黄	ハ°ルス B	13		
7	黒	モーター正転			

